

2007 年度

科目名 青年心理学	対象学科・学年 文学部全学科 2 回生 教育教福 2 回生 人間人社 2 回生	担当者 広沢 俊宗
授業テーマ 青年の行動と心理		
授業の概要と目標 青年発達とは、生物学的、心理的および社会的側面の相互作用によると理解されている。この授業では、青年心理学の体系化に際して、次の 3 つの枠組み、すなわち、1) 青年期初期を中心に始まる主要な変化—生物学的、思春期的変化、心理的、認知的変化および社会的役割の変化—、2) 青年の生活する文脈—親子関係、友人関係、恋愛関係、学校環境および職場—、3) 青年期の個別的特徴—同一性、性的発達、達成と親密性および自律性と愛着—を用いて、青年期におけるさまざまな心理と行動について理解を深めることを目的とするものである。 尚、本講義ではグループワークを取り入れ、レジュメ提出、発表、ディスカッションにより授業を進めていく。		
評価方法 出席状況、受講態度などの平常成績(10%)、レジュメ提出と発表 (30%)、最終レポート (60%) をあわせて評価する。 なお、授業を 1 / 3 以上欠席すると、最終レポートの提出資格を喪失するので注意すること。		
テキスト 青年の心理学 (ベーシック現代心理学 4)	著者 落合良行他	出版社 有斐閣
参考書 随時、紹介する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 青年心理学とは 青年とは何か、青年心理学とはどのような学問なのか。 2. 青年期の意義 急速な身体発達と性的成熟、大人になるための準備期間。 3. 男らしさ女らしさ 「らしさ」とは／男女の違いはどのようにしてつくられるか。自分らしく生きるとは。 4. 青年期の親子関係 (1) よい親子関係とはどのようなものか。 5. 青年期の親子関係 (2) 心理的離乳とはどうなることなのか。 6. 青年期の友人関係 (1) 友人関係と孤独感。 7. 青年期の友人関係 (2) 青年期における孤独感の類型からみた友人関係の変化。 8. 青年期の友人関係 (3) 最近の青年と親友。 9. 青年期の恋愛関係 (1) なぜ、人を好きになるのか。 10. 青年期の恋愛関係 (2) 恋愛関係の発展。 11. 青年期の恋愛関係 (3) 別れの心理。 12. 青年期の恋愛関係 (4) 結婚をどう考えるか。 13. 社会参加 自分にとって何が大切か、どういう形で社会に関われるか、又、自分は何をしたいのか。 14. 現代青年の特徴 現代青年をとりまく環境、現代青年のゆくえ。 15. 自立と決断 自立の遅い青年、自己や社会との対決と決断。		